

情報サービス産業白書 2013「変革への絶えざる挑戦」 アンケート中間報告説明会 開催

平成 24 年 6 月 22 日、商工会館において情報サービス産業白書 2013「変革への絶えざる挑戦」アンケート中間報告説明会が開催された。参加者は 45 名。

説明会では、最初に広報・人材委員会白書編集部会長の宗平順己氏((株)オージス総研 取締役執行役員技術部長)より、今回の白書の背景と狙いについて説明があった。主な内容は以下のとおり。

○JISAではここ数年、環境変化に積極的に適応し、新しいビジネスモデルの実現を目指して構造改革の議論を行ってきた。これを受け、情報サービス産業白書 2011-2012 では、「新たな成長に向けたビジネスモデル転換宣言」と題し、求められる構造改革の現状と将来にむけた課題を明確化する事を目的として、4 つのビジネスモデル転換の要素について調査・分析を行った。その結果、変革の必要性は認識されつつも、まだ加速感をもって取り組めていない実態が明らかとなった。

○これを受け、情報サービス産業白書 2013 では変革を加速するために、「変革への絶えざる挑戦」というテーマを設定。ITベンダーがビジネスモデル転換を推し進めるための背景にある要因まで着目し、「企業変革」として捉えた分析を試みることとなった。

次に、昨年引き続き情報サービス産業白書の調査研究を委託している(株)野村総合研究所の小菅一弘氏(情報・通信コンサルティング部主任コンサルタント)より、白書アンケート集計結果について説明があった。主な内容は以下のとおり。

【定点観測項目】

○2011 年度のJISA会員企業の業績は、前年に比べ若干の回復傾向にあり、今後も微増の見通しであるのに対し、ユーザ企業は円高・欧州危機等による経済状況の悪化、災害等の要因により、業績は微減となり、今後の見通しも厳しく見ているとのことであった。

【今回のテーマ「変革への絶えざる挑戦」に関する項目】

○受託開発の見通しについて、昨年引き続きユーザとベンダーの間で認識のギャップがあり、ユーザは減少すると見る一方、ベンダーは増加すると見ている。

○会員企業に変革の必要性に対する意識について社内のポジション別に尋ねたところ、役員以上では強い意識は持っているが、一般社員では認識していない割合が高いなど、大きな差があることが明らかになった。

白書編集部会では現在情報サービス産業白書 2013 の編纂作業を鋭意進めており、本年 11 月頃に刊行の予定である。

(田畑)